

平成28年度 全国学力・学習状況調査 結果からみた本校の学力についてのお知らせ

南丹市立殿田小学校

4月、6年生を対象に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、児童・生徒の学力を把握・分析し、指導上の課題を明らかにするとともに、学校における個に応じたきめ細やかな指導方法の工夫や改善の充実に役立てることが目的です。

今回の結果から、本校児童の学力を校内において分析し、共通理解を図った後に、学力向上についての対応策をまとめましたので、その概要をお知らせ致します。

○調査概要

これらの調査は、6年生が対象であり、全ての学年を網羅しているわけではありません。今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部」でありますので、学力を固定的にとらえたり一面的に見たりするのではなく、学校教育活動の一側面であることをご了解の上、ご覧ください。

【全国学力・学習状況調査】

○期日 平成28年4月19日(火)

○対象 小学校6年生

○内容 教科に関する調査

・主として「知識」に関する問題(国語A、算数A)

・主として「活用」に関する問題(国語B、算数B)

生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

○調査結果及び考察について

(1)国語

全ての項目において京都府・全国平均を上回っています。

問題別では、漢字の読み書きについて両調査とも正答率は大変高く、修飾語の働き等文法の問題についても高い正答率でした。今後も漢字も含めた言語事項に関して、授業や朝学習、家庭学習で習熟を図ったり、国語辞典や漢字事典を意図的・計画的に活用して利用する習慣をつけていきます。

「書くこと」の領域では高い結果が出ていましたが、「目的に応じて理由を挙げて話す」問題は苦手なところもあるので、授業の話し合い活動において、まず自分の意見(結論)を、その後理由を述べるができるよう意識させていきます。

(2)算数

「図形」の領域において、「算数A」の問題では100%の正答率でした。他の領域でも京都府、全国の正答率と比べて上回っています。

基礎基本の問題は100%に近い正答率で、しっかりと習熟がされています。しかしながら、「数学的な考え方が問われる問題に課題があります。問題文をしっかりと読み取ること、つまり「どのような情報があり、どの数字を使って何を答えていくのか」を確実に理解して問題に臨むことができるよう、算数の授業だけでなく他の教科の授業からも、まず「読み取る力」をつけていきます。そして、解答の根拠となる理由について言葉や式、図等を用いて説明したり話し合ったりする学習活動を進めることで、「数学的な考え方」の観点を伸ばしていけるようにしていきます。

○学力向上の重点について

以上の分析を踏まえ、学校として以下の方策を立てて学力向上に取り組み、全学年を通じて計画的、継続的に学力充実を目指していきます。

① 教材研究や学習形態等を工夫することで、学習意欲を継続できる授業を目指します。

学習意欲を継続する1番の方法は、学習が「わかる、理解できる」ことから始まります。そのために、ペアやグループでの学習を取り入れたり、ICT器機を効果的に活用したりして「みんながわかる」授業づくりをしていきます。

② 「話す・聞く」力の伸長を目指し、学び合い、話し合う授業を充実させます。

児童が主体的に学習できるよう、既習事項を根拠に自分の考えを深めたり、友達に分かりやすく伝えるよう具体的な言葉を使って説明したりする活動を増やすとともに、その書き方を丁寧に指導し語彙力を増やしていくことで、みんなが学び合える授業の展開を目指します。

③ 基礎的・基本的な事項を習熟し、その定着を図ります。

重点単元において、習熟度別少人数指導や個別の補充学習で個々のつまずきに対応したり、朝学習や漢字・計算大会、家庭学習において既習事項も含め、基礎的・基本的な学習内容を繰り返し行います。

④ 家庭学習の内容を充実、定着できるよう工夫します。

授業と関連した内容やその内容に関わる既習事項を取り組ませていく基本的な課題だけでなく、もっと調べたいことや考えてみたいことを自主的に取り組む内容等、多岐にわたった家庭学習を行います。